

# 第28回JAAFコーチングクリニックレポート

指導者養成委員会 泉水 朝宏

第28回JAAFコーチングクリニックは、昨今の社会状況を鑑みて、2020年度に続いてWEB会議システム（Zoom）を使用してのリモート形式での開催となった。「新たなコーチングへの試み」をテーマに掲げ、2022年2月26日（土）13：00～16：30にて3部構成として、それぞれの分野で活躍されている講師を招いた。

はじめに山本浩指導者養成委員長より、北京冬季五輪でメダル量産したノルウェーでのコーチ養成の取り組みなどが紹介され、「指導者と選手は横並びである」という指導の原点を見直すきっかけとなる言葉が印象的であった。

第1セッションでは「口腔科学的視点からパフォーマンスを考える」として、田邊元（たなべげん）氏（東京医科歯科大学医歯学総合研究科スポーツ医歯学分野 委員）に担当していただいた。近年、注目を集めるスポーツ歯科を歯科医師の観点から講義していただいた。陸上競技だけでなくスポーツのパフォーマンスを左右する多くの事例やご自身の研究をもとにした講義が行われた。後半には山本氏のコーディネートにより、質疑応答による対談形式の講義が行われた。最後には頭骨模型を使った「歯の磨き方」を紹介していただき、口腔内をよい状態に保つことの大切さを改めて実感する内容であった。

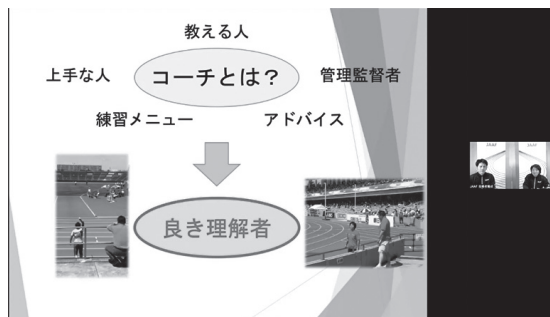
第2セッションでは「もしもコーチとして自分が、選手の自分を指導できるとしたら」として指導者養成委員でもある海老原有希氏（スズキアスリートクラブ）に担当していただいた（コーディネーターは、筆者）。現役引退後、コーチとして指導を始めて得た知識と経験をもとにして、過去に戻れるとしたらどの年代の自分（海老原有希選手）を指導したいかを中心に講義していただいた。後半には、コーチの視点として「選手と指導者が大切にしたいポイントを共有するコミュニケーションが必要」を大事にしたいという、コーチの原点を再確認させられる内容であった。

第3セッションでは「コーチングで大切にしていること」として、高野大樹氏（慶應義塾大学競走部コーチ）に担当していただいた（コーディネーターは、指導者養成委員会ディレクターの桜井智野風氏）。パラアスリートとの出会いから始まったコーチ生活や現在のプロコーチとしての活動を中心に、普段からコーチングの際に意識されていることを講義していただいた。高野氏のコーチングの基礎となっているという「発生運動学」をもとにした内容は、受講者に多くの新しい気づきをもたらされた。「指導者は動画で見る100本より、生でみる1本の方が情報量が多い」という言葉は非常に重みがあり、選手をよく観察し、選手との時間を大切にすることを改めて気づかされる内容となった。



本クリニックの担当講師（左から山本氏、田邊氏、高野氏、海老原氏）

2022年1月より継続されているまん延防止等重点措置により、今年度のコーチングクリニックもリモート形式での開催となった。本講習会の受講者は、104名（男性87名、女性17名）であり、JAAF公認コーチ、JAAF公認ジュニアコーチの有資格者は99%であった。今後の社会状況次第ではあるが、対面形式の生で見て感じるという講習会の良さと、リモート形式の手軽さを見極めながら講習会の開催を検討していきたい。



講習会風景①スライドを用いた講義（海老原氏）



講習会風景②（左から桜井氏、高野氏）